



# 希望に満ちて

さいたま市立大門小学校

自ら学ぶ子  
だれとでも仲よくする子  
進んできたえる子  
人とのかかわりを大切にする子

## 子どもたちの人間関係構築に向けて

校長 岡村 洋彦

現在、子どもたちは新しい学級、新しい先生、新しい友達と出会い、そして新たな人間関係を築いているところです。これは子どもに限らず、4月から社会人になったり、異動して新たな職場にうつたりした大人も同じだと思います。しかし大人と違って名刺交換して「よろしく申し上げます。」ということでは終わらないのが子どもたちの世界です。

子どもたちの新しい環境に「なじもうとする力」はいろいろな方法として現れます。ある子は見栄を張ると思えば、ある子は我を張ります。そのため小さなふざけっこが喧嘩に発展することもあるでしょう。多様な「なじもうとする力」の発現に、毎日教職員は、アンテナを高くして、よりよい人間関係の構築に向けて、努めているところです。

1ヶ月が過ぎ、緊張感も解けた今、「なじもうとする力」をよい方向で発揮し、大人の名刺交換では得られない、心から相手を思うことができる人間関係を様々な場面で生み出してほしいと思います。

また、子どもたちは日々の生活の中で自分の思い通りにならないことにたくさん出会います。勉強のこと、遊びのこと、友達関係のことなど、むしろ思い通りにならないことのほうが多いかもしれません。そういうときにどのように折り合いをつけていくのか、「折り合いのつけ方」を学ぶことも生きていく上ではとても大切なスキルだと感じます。そのスキルを身につけていくためには、いろいろな体験をすること、その中でたくさんの人と出会うことが大切だと考えています。「人は人との出会いの中で成長する」と言われます。遊びの中で譲り合ったり、助け合ったりすることやあきらめずに努力して、今までできなかったことができるようになること等、一つひとつの体験を通して、子どもたちはがんばる力や我慢する心、人に感謝する心など大切な「生きる力」を育てていきます。思い通りにならないことを乗り越えながら、子どもたちは次第に成長していきます。年相応に思い通りにならない壁にぶつかることも、子どもたちの成長には欠かせないものだと思います。

そして、子どものことを近くで見ている大人がよいところを認めつつ、時期をとらえて必要なアドバイスをしていくことも子どもの成長には大切です。同時に、保護者の皆様と学校とが連携して子どもの成長を見取っていくことが必要だと感じています。

「なじもうとする力」、「折り合いのつけ方」等、子どもたちの人間関係構築に向け、御支援をお願いいたします。